

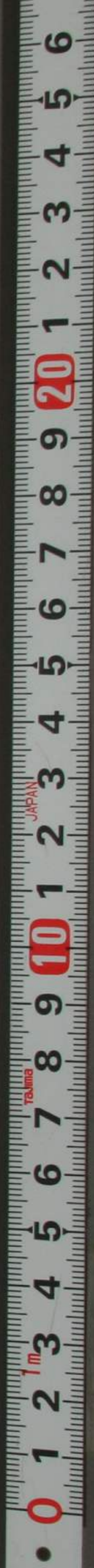


関ヶ原軍記

初編 十五

十六

特
遠13
2207
8



門遠13
編2207
巻8

池清

関ヶ原軍記初編巻之拾五

目録

- 一 鴟とび左近主人石田正謀まこと略名論りやくな談わ演えんる事
- 一 并三威さんゐ再またび緒いと柄がら次集つぎあつむ事
- 一 石田三威さんゐ佐和山さわやま下した向むかひの事
- 一 并結城秀康ゆきしげ今津いまつ送りおくりけ事

和漢

貸本所

東京牛込細工町

誠光堂

池田屋清吉

凡士農工商と云ふ夫々の職分家業を固て持用の是物を言ふ
 今日と營む夏世敷一紙の然るに世に本物の巻中解り白紙
 何れ種々の書入又ハ飛之と買來るべき本物人感見あはれ
 男女の陰癖かげを重き君臣父子の中ちゆうに西と東の合あは
 同く多し是等ハ以て一時の興きよう衰すいするの盛せい衰すいを
 其職分は道みち異いなり九く付つけり著述しやくしゆ拙ちよ筆ひつ者しやの誤ご
 何れも只言語げんごと云ふ其遇あひまひちと各おの免ゆる巻まき中ちゆうの裁さい画え筆ひつ者しやの誤ご
 池田屋清吉と云ふ是れ其源みなもと一固いつこて承う承りやう代たいて諸君しよきんを祈いのるる爾
 磨石山人識

池清



関ヶ原軍記初編卷之拾五

鴻左近主人石田一編略名編也

親事

并二成再び結ぶ集む事

曰く石田三成作和山の親事

お極中ら時家居鴻左近練言

まらるとりてありらひば左をり

軍令をもしりしはれ共三成是
千懸ぢん候くそ那く及びん
物の上を修和山より各率を
時奇せそ軍使を紀して引去
りしと急を其難使を時し
神君山下知る舟送りしして
結城宰相秀康と并中村或郷
少捕次をりしれり石田を依和

山乃撤申入し秘斗と云し次
此時之故の通塞れ所とぬら
云書し曰く良書の本と撰
んで候も良士と云る名は撰ん
で仕ふとの徳宣ぬらぬ所凡
そ人ころの尋せりしむ
危き及之將友近き事矢
もなきに物必しあるべ

者無智強の子人、秀、
武骨の万人、千、秀、
結、千、五、所、言、名、る、記、
角、を、仕、く、う、る、人、
石、田、と、し、良、好、く、あ、
は、存、小、義、士、良、士、を、櫻、
人、と、し、仕、わ、る、
随、分、ま、と、ぶ、る、も、又、ま、り

細、今、の、多、も、良、き、人、の、樹、を、
見、く、候、と、雲、を、鳳、凰、を、
少、を、枝、も、奇、く、は、只、桐、の、
葉、を、毫、く、て、宿、も、
繪、書、さ、く、桐、を、
此、あ、ら、ん、
邦、の、木、の、若、く、と、日、本、
と、の、言、の、梅、形、り、竹、も

終つ時を悟 友をい服くみ
て運命此邦を知く心して
石田よりまの若くはくくや
とを指えを乳きお律り
余候るを子細あり此友近
いえ来對等の國の人あり
力帯いあり百人あり
萬年の時大船を漕り

の本に入きと一人よせ
禮の者有り又去刀の穴澤
流の元祖大急人よせ
太刀おもし手取り又学
方の物あり稀なり若手
此時武蔵と好んで古来の
軍より中しとぬど
この所とぬる人

あゝ此方近き一夏也
秀でん子と相ひ太閤秀吉
公三人下り心その
良士城百出さるるつる夏を
笑くおつて物あり大坂へ
来り秀吉の内前を伺ふ
南阿石田を去る路三内車
けりしと随一する有は人を

頼ちんと名ひ石田へ候り
て由百抱へ年ありん
お郎の故由聞くと車次候て
一言ふる百出さるるとす
時之故者とは近頃強き
千智徳丸人下り捕れその
上軍学は在り人下り被是
難深しと只念は石田方

浪々娘^{なみ}は娘^{むすめ}ひとりして米^{こめ}金を
送り其^{その}上^{うへ}に婿^{むすめ}が子^こ息^い同^{どう}昔^{せき}新^{しん}
吉^{きち}といふ年^{とし}老^{おい}く又^{また}子^こ石^{いし}
合^あ力^{りき}して常^{じょう}く急^{きゅう}行^{こう}一^{いつ}く
あゝん又^{また}爰^{こゝ}に松^{しょう}倉^{くら}を^を築^たて
いそ頃^{ころ}日本^{にっぽん}一^{いつ}の武^ぶ骨^{こつ}の^の人^{ひと}之^の
依^よる婿^{むすめ}が娘^{むすめ}有^あ一^{いつ}と云^いふ如^{ごと}に
そを^をかむとあを^をりたり

喪^{さう}女^{にょ}とて松^{しょう}倉^{くら}城^{じやう}解^{かい}す
仕^し下^げり是^{こゝ}則^{すなは}ち左^{ひだり}近^{ぢか}が^がた
秘^ひ藏^{ざう}の娘^{むすめ}之^の部^ぶの如^{ごと}く支^し
人^{ひと}乃^{すなは}ち子^こ供^ごを念^{ねん}煩^{ぼん}す
其^{その}上^{うへ}に平^{へい}生^{せい}左^{ひだり}を^をば三^{さん}娘^{むすめ}が
子^こ供^ごの伯^{おぢ}父^{ちち}分^{ぶん}り^り中^{なかつ}り
く奔^{ほん}走^{そう}す^すら復^{また}脱^{だつ}す年^{とし}
久^{ひさ}しに婿^{むすめ}を^を婚^{こん}名^なの良^{よし}士^しを

是乃邪哉人の子供る念
頃多しと云ふ今
を他意なく毎く石田
が屋敷へ来た時とせんが
對する屋敷と書ひ
とく一百石知行を合
力す仍て父子を
一子と見ふ所
歟一石田が家老の
隨つと

故に今に是遊り及ぶ
をば知く世とし
たに故が
知りの恩を以て
家人と
故りたり石田が
長るを
色たる者也

去程く石田が
意お後一
變く依和山は
隠居し居る
旨衆人を
用物者とし
以て

内府公に由返言と申上り申
して、時友をがま入云ぬれ、誅を
せらるるこそ思ふ。され、叔友進が
曰く、先は程の。内府公の
形勢こそ心得申さる。誅を
下一統の功と誅を申人又
南村石田家此敵と見ゆら七人
の面々の今乃を申る。良將あり

されを世徳と申し、誅を申らん
浮田秀家も別心とお見ゆら
ありその御代めん。い中
よ及びん。友申さる。の誅を
度さる。併集、友誼、誅を
内府公に申上り申。誅を
誅を申らん。今、誅を申らん。誅を
下、一統、石田家の御代を

一のゆるゆる石く飛噴世中
とあゝざんばぬ難一兵さつり
返も又奉行の随一
手権をこのむれとさう今
隠居ある時をうらび是球の
あゝさひのぬるさくひあり
唯謀略のさうさう一さび天下
浪部さうとも 内府公さ

容易く亡ぶるは極まる
彼 忍を刑の安全と名目ん
あつり政事と本さうさう
表さう義と形り他より愛ん
ば穢と号して是とさう唯純
人の雨業地結のあり天晴
此度討ざんば將と嗜むとも
早撃友のさうさうさうさう

中よりと用ひあひて四人殺す
ら合せるが二万余人あり
さあり我本の手勢六百人も
多し又蒲生氏手勢二百
人程是のめん知りて
軍政ありは中健如志を勝
りて一万余人越るの方へ
明考せお流るぬ千は軍を

此父隠岐守及兼一法賢守多
下押守及と大將としてその
根元城よりあ佐和山の城攻
り又此方より一万余人を某
一に此領けあはる手勢と合
せて二万余人舞臺
高野城川瀬有る外遠
山宿誓の四郡に二万余人を

あつゝお結むすつ七なな子こ人ひとを石いし田の
籍せき布ふのこのさされふふりりに籍せきの
手てとををめて先まづ此こ方かた屋や一ひとま
目めの下したぬぬ液えき押おか屋や敷し火ひを
ううけけて道みち色いろの屋や一ひとももち
ををかか帝てい園えん乃の声こゑと揚あぐぐ依よ尼に
中ちゆうと大だいひひく混ま乱らんささももくくままるるり
手て種しゆやや此こ牌はいりの中ちゆうくく集しゆが

手て舞まい斗とりりよよておおひひで小こ路ろく
次つぎ立た切きく追おええく百ひゃく邊へんととも
皆みなゆる款くわんとと見みるるが追お詰づく討う取とり
集しゆ一ひと先まづ手てとと仕しりり登のぼ壇だん橋はしより
志し志し一ひと向むかひひ橋はしの
徳とく川がわ及および口くち鉾ほこに押お詰づひひ一ひと石
田の及およびの七なな子こ人ひとを無む二に子こ三さん子こ
内うち府ふ公こうと務む員ぎんと交まじじりりする

ふまにれりるれを流石の
内府公も大まふ精鋭さるべ
一を毛以家臣の人さる命と
捨くお御くくべしその内
ふ 家康公も百人も務
まると知常老切の大おるれ
定めて終ごの終さるりあ
門名中さるるま之大方の大和

路へ引退めあな又山城の
方形くば守治山科城まをり
て退きんも知まごの所へを
庸生と先手とて石田及志
新下を御くま退急べし
小懐くけまんも斗り
この方へ山御督川瀬左馬
と先手とて年人西及退ひ

玉へ漸多しと化して轍を中
る衆之を此故お遠くするあり
此家千火をうけ良時より生害
ありて極微運を故ていりぬ
良將名士とりあとも死を思ふ
うらむしと止めて忠ひまゝにて
お立ちぬ死を思ふ死せぬ
バ袖多しとや之又も時より

るを味方と多く出来せん其
時の再び権を多くしり
うる備とこの保略徳を
中と忠義と其の庸生も
此故を之と向せも天晴する
とまほしき中へは庸生とや
横山森内と名乗る作進政
宗の衆人そそむ略急値の大

力士よりて軍功もあつるもの之
されば冥途所々此報ひなり
武骨と取り其後蒲生飛騨
守に仕へ武骨此名とよく一
石形せしむ氏々死後く子息
及三郎秀行石形十八万石
減少して野刻字津の文(後
是りの時手浪人してあつる

石田三成を武骨と知りて是
れより家長より頼三万石あり
左近少輔お役よりいふに三
つとともいふ又海切之儀
鶴と同く練去其三成は
噴霧け放程ありの星見
一理有り去りて依竹義宣を
久しく急ぎしめて太閤以来

今之留^{うら}は^ら律^{りつ}義^ぎる^る人^{ひと}なり
結^{むす}る^るに^に先^{せん}刻^く牛^{ぎゆう}取^とと^とお^お法^{ぽう}と^と極^{ごく}わ^わる^る
上^うる^るあ^あん^んが^が今^{いま}又^{また}衰^{えい}留^{りゆう}は^はら^らの^のあ^あ矢^や
此^{こゝ}義^ぎと^と少^{せう}く^く之^之又^{また}心^{こゝろ}産^うも^も袖^{そで}り^り後^ご
事^{こと}之^之仍^{なほ}て^て世^よ上^うる^る今^{いま}一^{ひと}意^いお^お積^つ
ま^まる^るり^りと^とて^て又^{また}と^と役^{やく}者^{しや}と^と以^もて
研^{けん}り^りお^お法^{ぽう}結^{むす}り^りの^の中^{ちゆう}も^もなり^り
又^{また}膳^{ぜん}列^{りやく}の^の酒^{しゆ}を^をせん^{せん}と^とり^り

送^{おく}る^る存^{ぞん}作^{さく}行^{かう}と^と始^{はじめ}め^めと^と一^{ひと}て
ふ^ふ力^{りき}れ^れめ^めん^ん〜[〜]集^{あつ}り^りたり^り

石^{いし}田^{でん}之^の願^{がん}函^{ぽう}依^い和^わ山^{さん}に^に下^げ向^{むか}の

兼^{かみ}法^{ぽう}城^{じやう}高^{かう}康^{かう}々^々送^{おく}り^りの^の中^{ちゆう}

柞^{さく}石^{いし}田^{でん}之^の取^とが^が依^い作^{さく}右^う系^{けい}を^を更^{さら}改^{かい}
号^{ごう}教^{きやう}は^はら^らの^のあ^あま^ま子^こ印^{いん}を^を身^みに^に結^{むす}め^め

此依布義宣を修理善義寺
の長男として其名義廣を岩城忠
次郎の舎弟あり右京大夫義
忠の孫にして新羅三郎義光
の教代相續して其名をく
水戸八十石代領して在義寺
の藏田信長に籠中して有る
軍功あり隠居の家督此今此

孫の義宣より徳義宣後
下侍後任せられ秀吉公は
又軍功あり回領を治り
律義する人あり又武勇も
ぶりのちう一隊長よの沼江梅
津 戸村おのめん ありて
保護の巻居あり此人石田
一之来りて御書の暇乞

いりく 新条^ぢの中合せごと
く 依竹もまゝ本^ま必^ま帰^り
上松原と心を合せて籠^{かご}を揚^あ
げまゝあり石田屋も依和山^{よわ}
勢^{ちから}居^ま残^まささう時^{とき}はと待^{まち}
とゆゆく三^{さん}次^じも今^{いま}更^{さら}つ
練^え言^ごとゆ^ゆ出^いま^ま毛^け場^ば合^あ意^い
あ^あとあ^あ扱^あく^くう^うこ^こあ^あつ^つを^をれ

関東の 御^ご運^ん目^めの度^ど以^いる^るな
この鴻^{こう}左^さ近^ぢま^ま練^{れん}言^ごり^り
の今日^{けふ}の^のま^まで^で千^{せん}日^{にち}を^をか^か
ゆ^ゆ傾^か身^みえ^えん^んど^ど今^{いま}ま^まり^り此^{こゝ}
延^{えん}引^{いん}の^の苦^くり^りん^んと^とゆ^ゆの^の筋^{すぢ}を^を
とも^{とも}洋^{やう}定^{ぢやう}極^{ごく}や^やり^りて^て是^ぜれ^れと^と
依^い和^わ山^{さん}へ^へ留^{りゅう}城^{じやう}の^のこ^こ武^ぶ伎^ぎを^を乳^に
一^い威^いを^をと^とり^り徳^{とく}人^{にん}の^のん^ん

梅子^{アサヒ}深く見あつてくくはまへ
ありそのよ 内府公の法
心中しこのみよるは又は度
七好のめんくはこころ入きも
知^し難^がくさん^バ佐和山より道^ち
ひのきと叫び返あつてくはる
るしと縁^ち手^て佐和山は中をり
て大場^バ古^コ佐^サ 高^{タカ}井^イ中^{ナカ}未^ミ二^ニ子^コ

余人^{タリ}鏡山^{カガミ}陣^{ジン} 一^{ヒト}らん^{ラン}が^ガ生^{ナマ}
伎^ギ中^{ナカ} 翁^{オウ}云^{クニ}庫^{クラ} 小川^{コガハ}平^{ヘイ}衣^イの
おのこ子^コ余人^{タリ} 一^{ヒト}らん^{ラン}が^ガ生^{ナマ}
陣^{ジン}取^{トル}子^コ苦^ク相^{アヒ}潤^{ツク}ひく^{ヒク}石^{イシ}田^タ
舟^{フネ}より^{ヨリ}伎^ギを^ヲとり^{トリ}つて^{ツテ}明^{アカ}後^{ノチ}日^ヒ出^デ
立^タ佐^サ和^ワ山^{ヤマ}は^ハ下^{シタ}向^{ムカ}ま^マへ^ヘま^マむ^ム子^コと
云^{クニ}上^{ウヘ}も^モ 内府^{ウチノ}公^{キミ}法^{ホウ}悦^{エツ}る^ルび
あつて^{アツテ}け^ケは^ハ世^セに^ニ物^{モノ}強^{ツヨク}な^ナる^ル

おろろり石田と送り中
居りて石田結城宰相秀
康の仲村一氏生駒市城居て
入子此軍兵物の具を急して
送りてこれ一は方上大名
石田と討きて
家康が武威くらげべし
御意なりなりおのく

伏見城立く石田と同律
色あつとろろ小籠山科
此へん平御り人の言
らんを結城度并び小中村生駒
等馬とむろり時よ語を
のり出して物見して立寄り
石田が来來を迎ひし来りしと
りろろろろおのく

安堵——うり此時三叔うしゆより
下りて中々今依和山よわやまより
近ちかひ此人教来りしんじやうの定じやう早はや別条
ありこれより以歸りあれじ
と中々色いろば秀康々しゆかうのいそく
いや——依和山よわやまよりいそく
を交まじり西にしへもいそく通とほり
内府公うちうらぎれ布ぬせよんは交まじり石田いしだ三蔵

を依和山よわやまより送おくり
届とどけやべしありその
ありこれ 内府公うちうらぎふ色いろば
重おもきいそく之我われおが父ちちの更さらなり
平生へいせいの御心ごしんを以もつて律りつ義ぎに
備そなへしむを後ご初しよの 長ながせも
省しやう美み難がた——いそくは徳とくを以もつて歸かへり
うしゆよん必かならず定じやうの勅しやく南なんよりん

其時の我不孝の罪又守らざる
の汚辱めお孝人とて以て
好く御す父の 御ま集哉
童んトドめお世の石田も
程新よおりて今のをや勿疎
有るあまの御り下さるへ
追て送ひ此ののども来りて
依和山へも程近しとちりゆる

生駒も中村毛練め来りて
我々 肉厚公乃御前を
御清合中へ 送程く
中へ是より送り此の汚
跡りやとる也 油漬

関ヶ原軍記初篇巻の十八 終 油漬

池清

関ヶ原軍記初篇卷之拾六

目錄

- 一 福原恒見 怨谷木政易の事
- 并 家康公伏見御入城の事
- 一 大坂城中圍討沙汰の事
- 并 神君大阪所登城の事

油清

同ヶ原軍託初篇卷之拾六

福原

恒見

熊谷等改易

の事

并 泉康公伏見河入陣の事

曰く石田治部少輔三成佐和山
邊塞後目付役遠海までよ
討交りおろす時、福原

垣足 怨谷 木形 分り あり おきわ
まり 改易 進放 あり あり あり
三人の その とも 佐和山 一 来り
く 石田 一 徳 丈 二 丈 大 一 小
神 志 誠 旬 一 九 月 九 日 以 聖 義
と して 神 君 大 坂 一 法
登 博 出 席 倭 人 有 寄 合 評 定
雲 々 ち ち 一 お 極 ち ち 一 一 一 一

内府公へ 告 奉 人 あり 物 是
ども 所 登 博 有 一 一 一 一 一 一
謀 畧 神 妙 あり

兵 書 一 曰 一 船 中 楫 あり あり
時 之 流 木 乃 一 一 一 一 一 一 一 一
楫 斗 り 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
舟 此 道 具 之 事 あり あり あり
船 中 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

水止り浮んでゆく物と
つき次さんば世もあき
道具ありさし 片楫おの
乃多き時をそは後へ便り
れまらとくしあひ波よ
たがらふ浮木同前あり
彼今バ馬よ響斗り以鼻
痛ひも武時をむとく

猪の牙をとりごころり蓋
あすかおとく 中の役人
和曲もるもあ舌と企つる
人成後言はるるそこの歌を
あつとくあつひの極うひ
さるりのとき時を中く
前後謀畧お叶はれさんば
平生代りさしも後傳を

接あつた人を必く一人
あつたはる人の既せん
時きりある心藏を
少子此深あがごとくあり
友子福系在馬之介の宿
が妹聲を垣足 怨言を
石田ヶ方人形り三女を
又車けり随一ありて書

人あんな彼目付三人とも
よ心決合せく様は此私曲
をとりぬへ何きもの緒怨を
むさうがらちうらに石田ヶ依
和山子執居るにむつて
の構あるき少子此ごとく七
の面の一列して和目付
友人をお子よ立並びて

對^{たい}交^{こう}手^て及^{およ}ぶえより倭^わ奸^{けん}
申^まへ忽^{たち}ち^ちお飛^ひぶん^ん千^ちま^まの
ま^まり^りり^り

去^き程^{じやう}ふ石^い田^{でん}活^{かつ}部^ぶ中^{ちゆう}棟^{たう}三^{さん}成^{じやう}を
居^ま埒^ち江^え州^{しゆう}佐^さ和^わ山^{さん}の隠^{いん}居^く一^{いつ}り^り
りぞ伏^ふ見^{けん}大^{だい}坂^{さか}よりふ一^{いつ}ま^まづ
鎧^{よろい}ありんば七^{しち}将^{じやう}のめんく
も勢^{せい}懐^{わい}と階^{かい}一^{いつ}ま^まり

家^け康^{かう}公^{こう}此^{こゝ}所^{しよ}威^い光^{かう}とあつても
日^に月^{げつ}の如^{ごと}くあり寔^{じつ}ふ福^{ふく}原^{げん}
右^{みぎ}の女^め并^{なら}び小^こ太^た田^{でん}垣^{かき}足^{あし}態^{たい}
谷^や木^ぎのに人^{ひと}乃^{なり}者^{もの}ともいへる
戦^{いくさ}合^あちて新^{しん}解^げ在^あ陣^{ぢん}の時^{とき}太^た田^{でん}
垣^{かき}を乃^{なり}目^め射^や殺^{ころ}せられたる多^た敷^{しき}交^{かう}
ふよりく七^{しち}将^{じやう}のめんく領^{りやう}
目^め射^や殺^{ころ}せたる小^こ相^あ目^め射^や行^{かう}

中貞志事門 毛利伴誓書末
正送吹路の老有るあはま
七羽の西とと一ツよりあつて
鋒初と及びねよ川と

内府公の裁許をうん中其乳明
代役人として中老職大谷刑部少輔
淡野弾正少弼 中村或親少輔
おろり又車りよりの指田衣を

尉 長束大藏左輔 前田徳兵衛
院を和徳役人等あのかく
列座して一方の福原方四人
又一方の竹中毛利の武人五人
並んで新解軍の垣をあらひい
新曲 淡路侯石田三成が奸曲より
よりく切ある人をとりつくり
押へ猶怨をさるる人をば能辨

成 古太閤越かきあしる夏は
まふふれあし 前より石田を
人平も今よりその事叶は
心より構あき恥のどく之
依く福原がさい唯一言下
源介にお極まりて
内府公の節せよの志
此及して士の法を省く是

天下混乱の根えあり以来は
尺蠖一よまらるの条改易
いふ次べしその 御内意小
依て増田長束が裁判して
四人ともにも身に刃終あり
福原を二万石跡り二万石宛
成しつらるが忽ち小流特の身
と依く伏見より壺へ浪人

しつりらんよつく福系志
馬系もまへま指形く恒足
惣谷越同律して佐和山は来り
之故く西舎してこのむを
うしり大ま
家康公越恨み奉りて述懐
石田も笑て陣の御くうり
のしりて
徳川度ち

秋修して石田が黨越芥の
おとくにしつりあはるは惜
たつあはりして福系志佐和山
れ陣中く尚をく急りて
の中とお伺ぐま去れは昨日
治郎が輝が陣漢お手いこの
福系志もあはりよめて
左をが中と用ひばら度ち

所りこれ運命の限りと知
まね徳又 徳川家康公

の伏見の向ふ下由千清彦の
時元まき

さうんして徳人これ清神
の下にまんとしと福がよ南村
石田三成過塞一とられは只
所まき人して外可

家康公越き押ゆらるる

池田 友加度 清野 細川

福嶋 黒田あしび生約 中村

増田 去来未皆く古今

家康公さうて下は御後見と

して清昌成らゆ構へては西彦

比ゆく世は此風流を大音形

まきとらく伏見乃本城は清

移り有くはるべしと遠て
中らるる
肉厨公も

志をくくは辭返たげりしと
のた又たのそ清遠意ある
をたし中もあははは上を
あへくは練ありそ志くがひ
危も角免いしそべし柳り
泉康が棄ひ操むはは別んよ

河べとくは依尼の城は
入河也別ち城番の番田を以て
本城舟の武具を糧等
當城子終一馬とそあつのお品
を珍るべしそ掃除して
志りそ紀り依くは刀平の
血を塗らばして刻の如し
これ終る可

東窓宮の所武徳よりうつて
あつり

大坂城守討沙汰の事
并 家康公大坂清忠城

の事

刑

徳川家康公の所威光よりうつて

盛んとして前田 上松の在
玉乃清順を弼りて帰
また東窓の徳大なる在
又東窓のあり所より九月
朔日と成りて

家康公の所せらるる久く在
伏見にて秀頼は謀をせしむ
よりの来る九日大坂にうつり

敬書 二 三 四 五 六 七 八 九 十

作 あそ の ぶ

されたり 終り 千 二 三 四 五 六 七 八 九 十
法 同 幣 も 多 く 異 二 三 四 五 六 七 八 九 十
所 出 立 形 九 月 六 日 大 坂
入 所 あり 二 三 四 五 六 七 八 九 十
千 止 嘉 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
の 表 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
千 来 り て 中 二 三 四 五 六 七 八 九 十

御 登 棟 の せ 川 せ 川
名 も ち 伝 々 傳 二 三 四 五 六 七 八 九 十
二 三 四 五 六 七 八 九 十
交 度 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
古 方 却 二 三 四 五 六 七 八 九 十
士 二 三 四 五 六 七 八 九 十
武 松 人 二 三 四 五 六 七 八 九 十
涉 洲 二 三 四 五 六 七 八 九 十

ありその根元を尋てなむ
比得先加判の利長内々して
人をとさし執一右乃調畧い
さるるより一風吹仕ひ危く
雪討乃沙汰一交とそくそ角色
たうふゆと肉くそしゆ
とたり
やーおろろ入まのぞん満足
泉康公味

中まありとゆ言へたづらるる
翌日おとりて去来大尾を捕
も来り右乃脱越ゆりうら
様手後系極高次よりも九日
此御宅様を御扱へ者てゆ
るしとの内を尋りおらに
泉康公乃所武徳を和漢より
秀でしる所名將をさし

も滞構まひひ形かたちくいいくく九く日にち
よの市いち電でん燈とう塔たかありささくく免めん
うう子こ次じ身みありあり去こ後ごふふ来き九く日にち
市いち電でん燈とう塔たかと 作つくおおさされれ後ごららが
借かりりくく々々様さまくくよよいいくく次じ
屋やくくととくく九く日にちのの子こ輕けい市いち電でん燈とう塔たか之之
るるのの日にち滞まひ構かまののめめんんくくくくののりり
井い伴ばん多た郷ごう小せう幡ばん 柳やなぎ原はら或ある釣つり左ひだり幡ばん
くくののりり

本ほん多た中ちゆう務む太たい幡ばん同どうくく总そう徳とく寺じ
癸みづ平へい九く八はち幡ばん等どうとと百ひゃくつつれれらら
るるののめめんんくくのの殿でん中ちゆうへへ滞まひ借か
付つくくべべととありありままくく小せう所じよのの内うち
子こ市いち身みをを記き前まへ切きり付つ構かまのの面めんくく
くくのの降くだり屋や中ちゆうへへ懸かくく液えき田でん中ちゆう幡ばん
曲まが測そく務む左ひだりへへ林はやし 務む又また幡ばん
横よこ田でん島じま又また扉ひらありあり液えき色いろ中ちゆう

飛鳥列コサては身まわり此後そ
となく武彦タケヒコ近チカ来りて用ん
信久ノブヒサ—そのまわり衣
ぬ人のめんく—いそれ悉く
くは方カタ—まゝあふと配りて清
借カりあけ立たの流ながと急いそめ
神カミ無なけ末すえ了り相あ成なりと急いそ—
くち刀ヤさし—うけ武タケ常トコ

たらく—くまぐらりさう
の門カドよて妻つま会あひ—とあ
とぐめきとひ
内府公ウチノノミヤノキミよりとも古ふる々々空くう楯たて以来いらいの
禁かぎ割わりあり大おほ勢せうわさし—とあ
んありと割わり—たれども海うみ邊へ
中なかつ飛と鳥との味あじぬ体ていあり終はつりく
井い俣は直ち政せい立たゆりて

内府公より年々老しおろび
とむひもれはゆかり不自由
ありち護のこありよは糸我
借仕はとお敷るまのそふ
や名もろへま子く整む
る人もあり野く
家康公より大坂城内の或處
のぞみぬる時干後迎降屋

曲洲横田林等れあん
役ごらちあく殿本ときり
白眼んで尋彼もいさふ
らん有換あり叔子のあ人
めんくい石式基よりあがり
より城内乃徳士の法近ひ
出湯手引たてまつらん
家康公作せらるる

六十歳よりあれどもいふは健
ありとありく井伴 本多
柳原 豊年等前後友友
身添く申くううううう
むこのの七の七方初立境大境
修理免乃友人あび平年
人の力士たも役立と名あ
用色いささうあうん者清佐

此人々の武勇よりあびる
まやうちうううう出合
者あけまぶるあびる
まやう出くあううう時
まぶるあびる今まぶる
セらうちうう秀頼ううまや
上原の男へ出あはし時
家康公まぶるううと

河内へ行相市正へ命ぜり
秀頼此市抱えあつてさそく
を中へ成長しつるゆゑのうれ
太閤の在世へおめていひ清く
あつてまゝあつて振さすりあひ
てこのの 家康より中より
終へる存の程これ程候とのが
是等討あんどこの結構を中

いふくの悪工もあつた人の
あやまちもあつて六十歳
ありて衆さうづまを遊せらん
次で徳大名徳侯人七組の西
へあつたまゝでさそく
さそくゆゑと西へあつた
はるふ大衆古方あつてびふ力士

